

SONY



SONY
Headquarters



2004年度 第1四半期 連結業績概要

(2004年6月30日に終了した3ヶ月間)

ソニー株式会社 IRオフィス
Sony Investor Relations

スライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。口頭もしくは書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみにも全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、あらたな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1)ソニーの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向、(2)為替レート、特にソニーが極めて大きな売上または資産・負債を有する米ドル、ユーロまたはその他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入と急速な技術革新や、エレクトロニクス、ゲーム、音楽、映画分野で顕著な主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争のなかで、顧客に受け入れられる製品やサービスをソニーが設計・開発し続けていく能力、(4)ソニーがエレクトロニクス、音楽分野において人員削減やその他のビジネス事業再編を成功させる能力、(5)ソニーがエレクトロニクス、音楽、映画、その他分野においてネットワーク戦略を成功させる能力、音楽、映画分野でインターネットやその他の技術開発において発展し、販売戦略を成功させる能力、(6)ソニーが主にエレクトロニクス分野において研究開発や設備投資に十分な経営資源を適切に集中させる能力、(7)ソニーと他社との合併、提携の成否、などです。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

FY04.1Q 連結業績

(億円)

	FY03.1Q	FY04.1Q	前年同期比	前年同期比 (LCベース*)
売上高	16,038	16,121	+0.5%	+5%
営業利益	167	98	-41.4%	+27%
税引前利益	358	66	-81.5%	
持分法損益	-97	201	+299億円	
当期純利益	11	233	21倍	
構造改革費用	65	120	+55億円	

*LCベース: 円と現地通貨との間に為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)

為替変動による業績への影響額	平均レート	FY03.1Q	FY04.1Q
	売上高 : 約 -662 億円	1ドル	117円
営業利益 : 約 -114 億円	1ユーロ	133円	131円

FY04.1Q 業績ハイライト

- ✓ 現地通貨ベースの売上高、営業利益はそれぞれ5%、27%の増加
(円高の影響により円ベースでは減益)
- ✓ 営業利益は、4月時点における見込みを上回る
- ✓ 純利益が大幅増、ソニー・エリクソンが貢献
- ✓ フラットパネルテレビ、デジタルカメラ、液晶リアプロジェクションテレビ、半導体などが好調な売上を記録
- ✓ スパイダーマン2が記録的大ヒット
- ✓ FY04通期見通しは、期初から変更なく、60%営業増益の見込み

最近のビジネス・トピックス

音楽コンテンツのオンライン・ダウンロードサービス「コネクト」を
米国(5月4日)、欧州(7月5日)でそれぞれスタート



CONNECT



「コネクト」からダウンロードした音楽を、「Hi-MDウォークマン」、
「HDD内蔵ネットワークウォークマン」、「VAIO pocket」や他の
ソニー対応製品にダウンロードして楽しむことが可能に

デジタルカメラ「サイバーショット DSC-T1」は、日本国内で6ヶ月間連続
シェア1位をキープ、米国でも5月にシェア1位(シェアは数量ベース)



【スパイダーマン2】の劇場公開初日の興行収入は4,050万ドルに達
し過去の最高記録を更新、米国での興行収入は3億2850ドルを達
成 (7月25日現在)

ソニーとベルテルスマン社の音楽制作事業の統合に関して、
欧州の規制当局からの認可を取得

Sony BMG

FY04.1Q エレクトロニクス

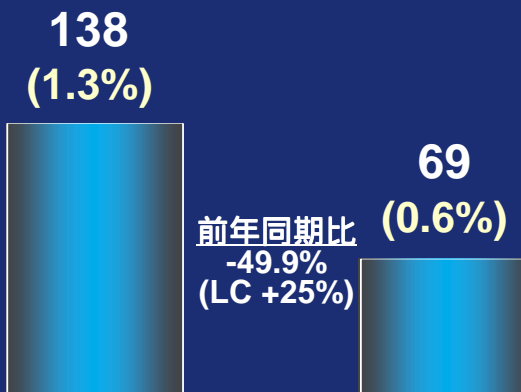
(億円)

売上高



- PS2の外注生産移行などが減収要因
- フラットパネルテレビ、デジタルカメラ、液晶リアプロジェクションテレビが好調な売上を記録し外部顧客向け売上は増加

営業利益



- 円高の影響、構造改革費用の増加により減益
- 構造改革費用107億円を計上 (FY03.1Qは46億円)

FY03.1Q

FY04.1Q

セグメント間取引を含む
LC: 現地通貨試算ベースの伸び率
営業利益下の(%)は営業利益率

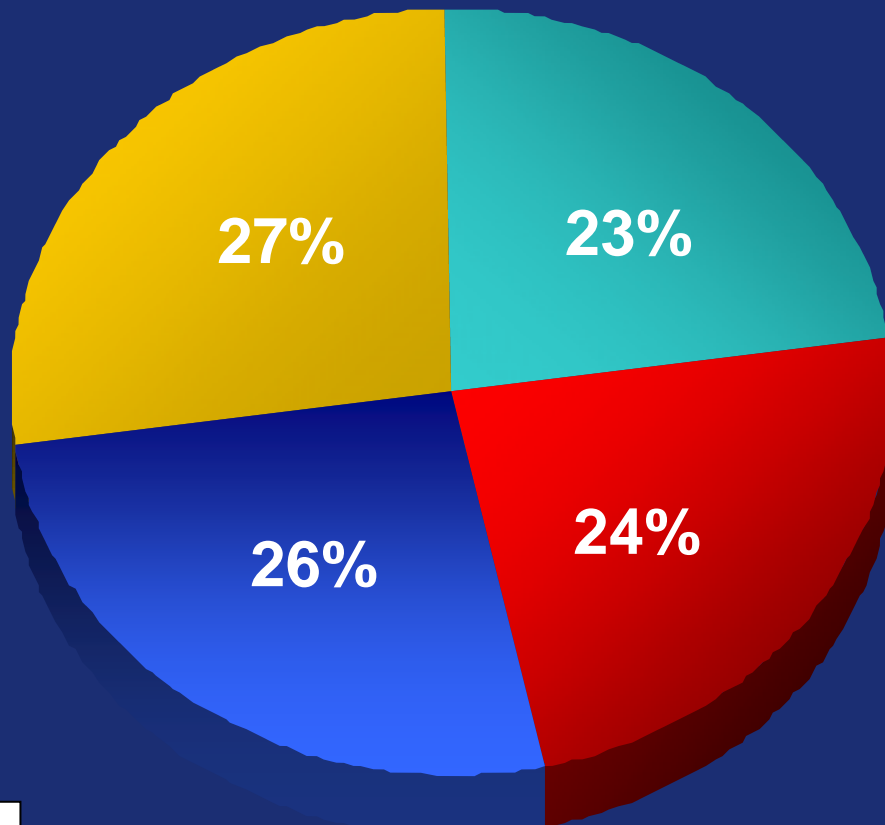
エレクトロニクス地域別売上 (FY04.1Q)

その他
+21%
(LC +29%)

増収
デジタルカメラ
ビデオカメラ
PCドライブ

欧州
+11%
(LC +13%)

増収
携帯電話
フラットパネルテレビ
デジタルカメラ



日本
-5%

減収
携帯電話
PC「VAIO」

米国
-9%
(LC -1%)

増収
プロジェクションテレビ
減収
ブラウン管テレビ

営業収入を除く
外部顧客に対する売上
10,827億円 +4% (LC +8%)

円グラフは地域別売上高構成比(円ベース)
円グラフ外の%は前年同期比伸び率
LC:現地通貨試算ベースでの伸び率
営業収入を除く外部顧客に対する売上

エレクトロニクス営業利益増減要因 (FY04.1Q)

(億円)



*対売上比率の前年同期比

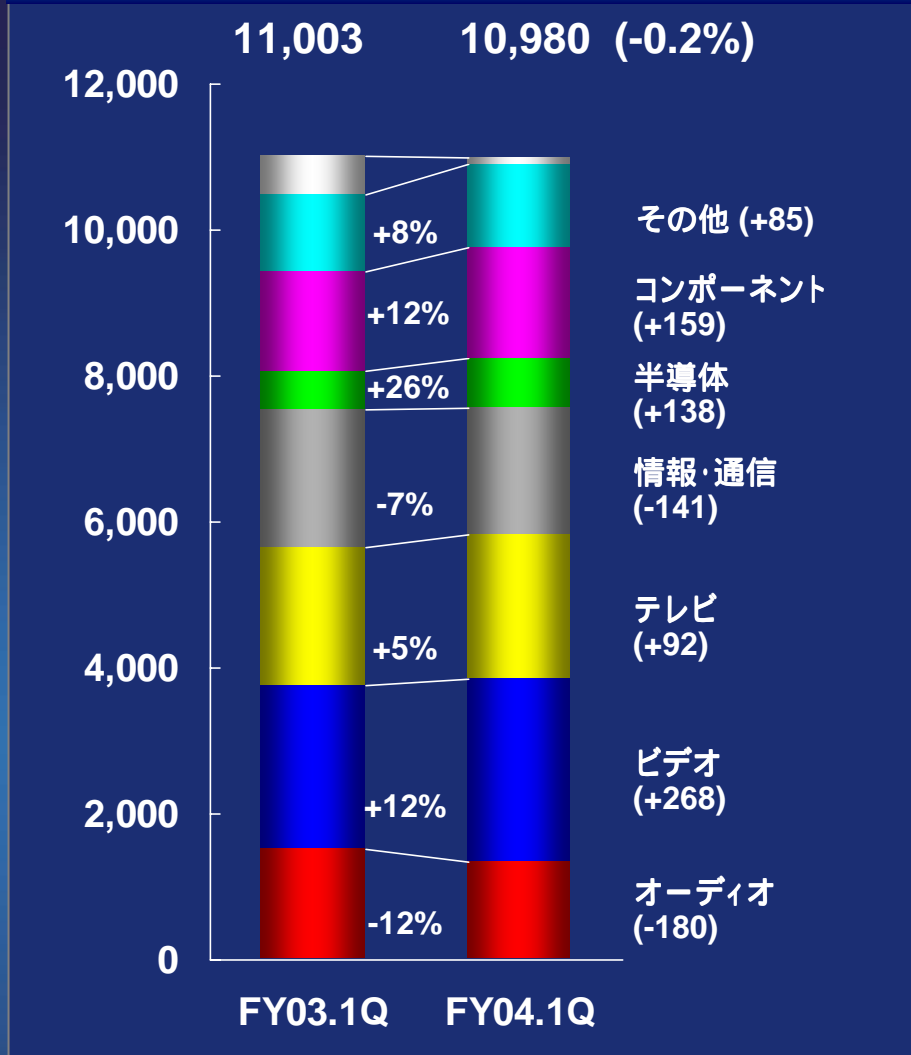
***売上増による粗利増減 = 売上増額 × 前年同期の粗利益率として、セグメント間取引、外部顧客向け売上に対する粗利増減を別々に算出し、合算しています。

***売上原価率の変化による原価増減 = 原価率の変化ポイント × 前年同期の売上高として、セグメント間取引、外部顧客向け売上に対する原価増減を別々に算出し、合算しています。

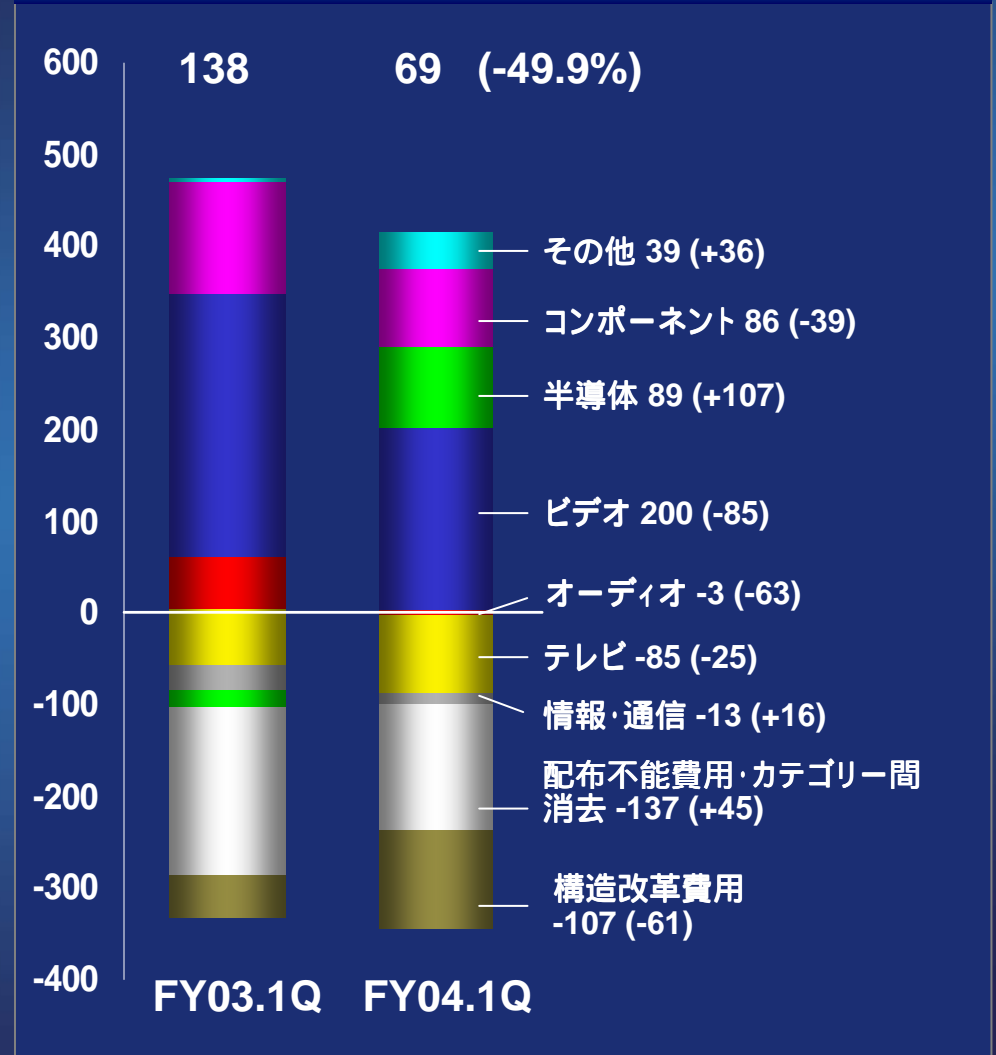
FY04.1Q エレクトロニクス(製品カテゴリー別)

(億円)

売上高

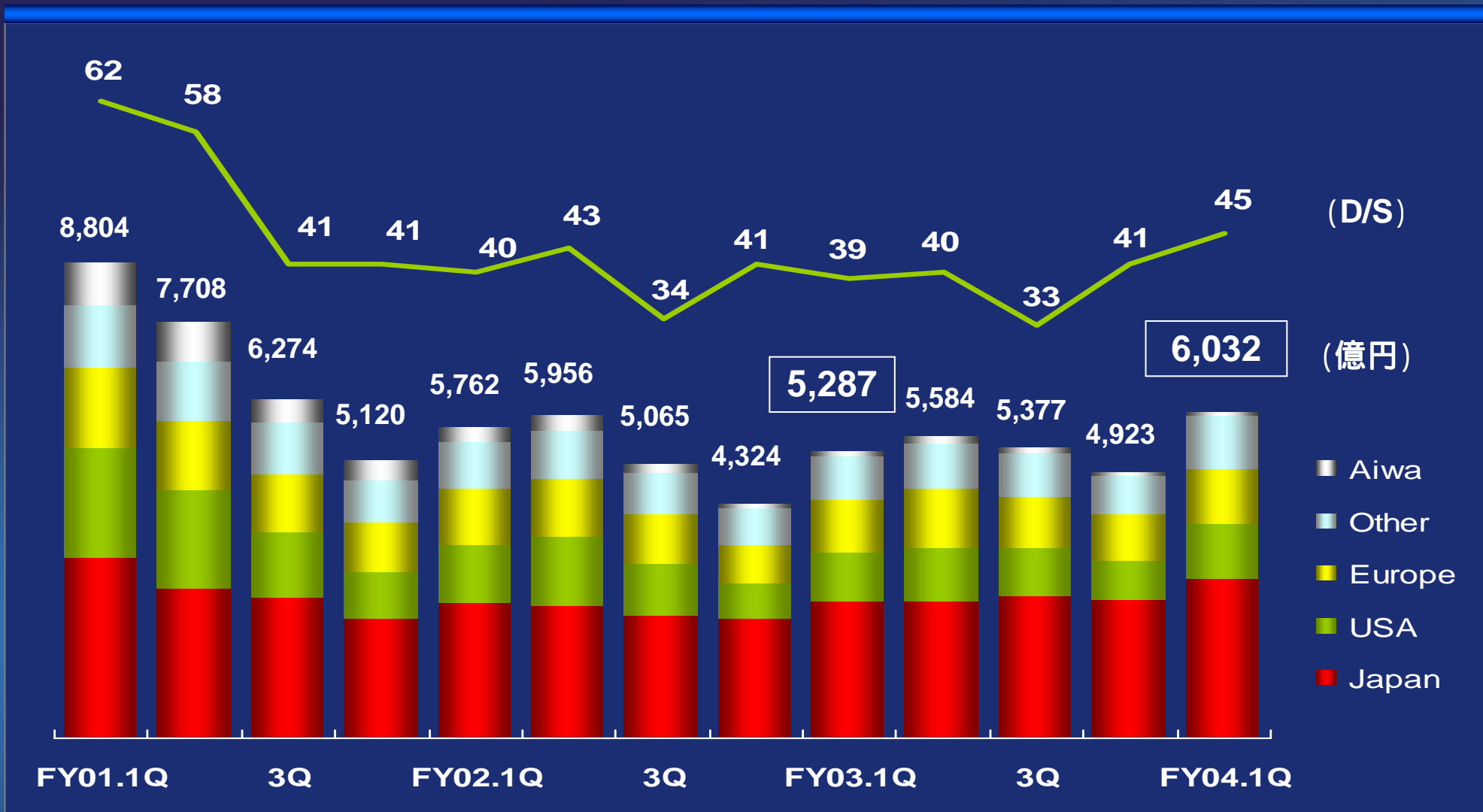


営業利益(損失)



()内は前年同期比増減(億円)
各カテゴリーの売上はカテゴリー間売上を含まないベース

エレクトロニクス連結棚卸資産(地域別)

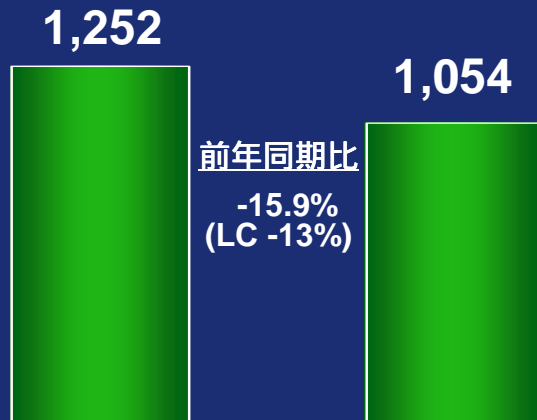


棒グラフ：在庫水準（億円単位）/ 折れ線グラフ：期首期末平均在庫 対 平均売上回転日数
 ビジネス別セグメントの区分変更により、FY01.1Q～FY01.4Qの在庫金額および在庫回転日数は修正再表示しています。
 ビジネス別セグメントの区分変更により、FY03.1Q～FY03.4Qの在庫金額は修正再表示しています。

FY04.1Q ゲーム

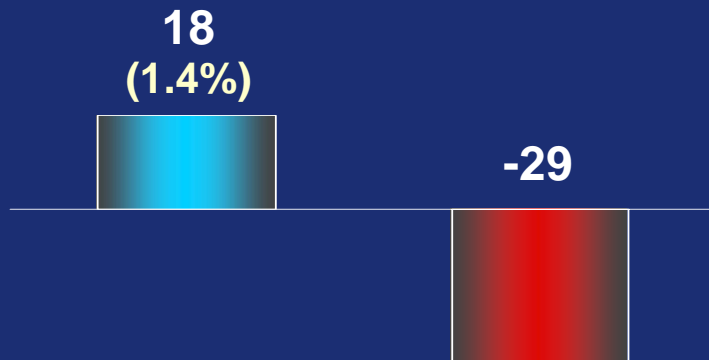
(億円)

売上高



- ハードウェア: 販売台数の減少に加え戦略的な価格引下げにより減収
- ソフトウェア: PS用ソフトウェアが減収となったが、PS2用ソフトウェアが増収となり、全体で増収

営業利益(損失)



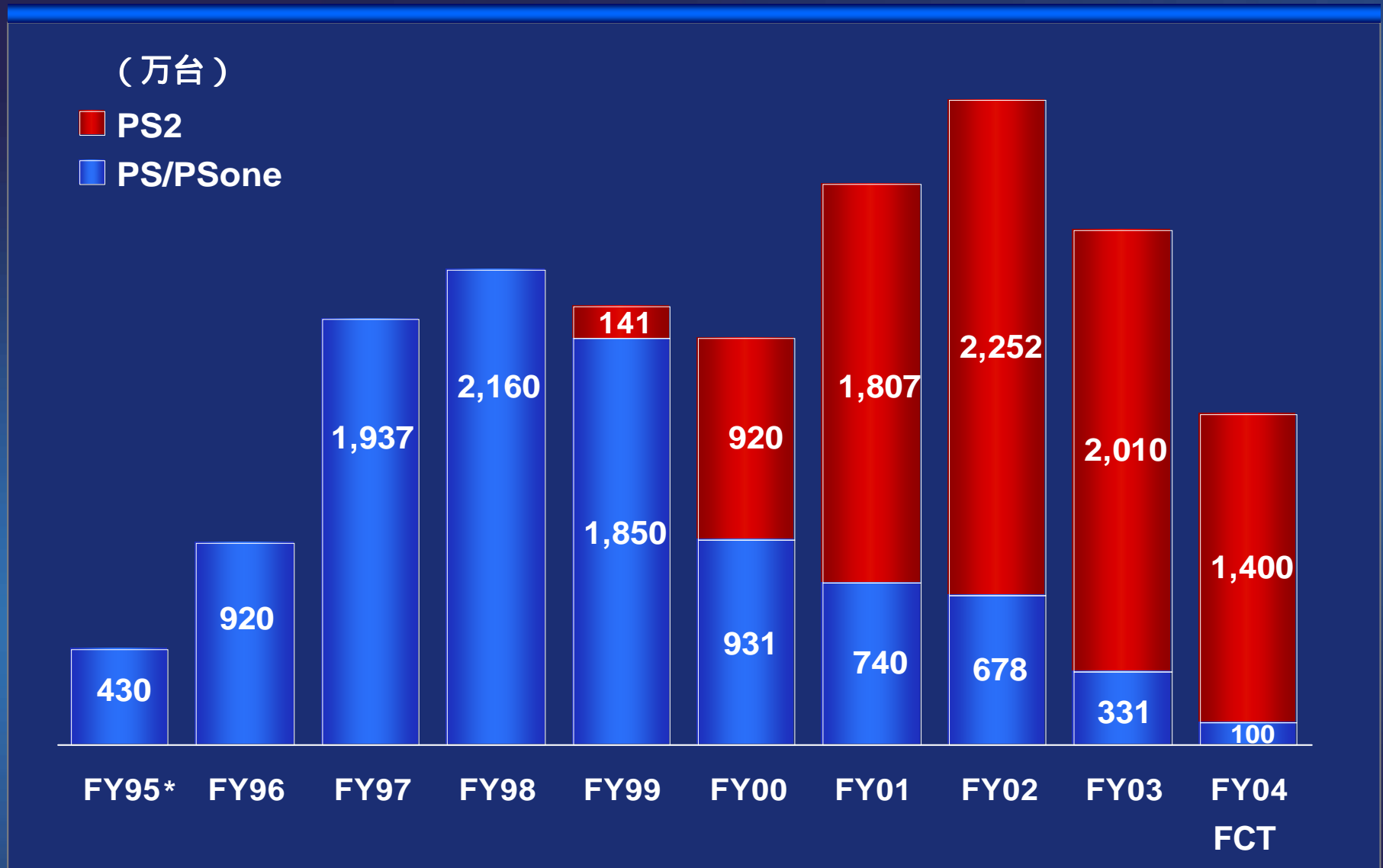
- ハードウェアの売上減少や自社制作ソフトの減少等により減益

FY03.1Q

FY04.1Q

セグメント間取引を含む
LC: 現地通貨試算ベースの伸び率
営業利益下の(%)は営業利益率

PlayStation ハード生産出荷台数推移 & 計画



*FY95は94.12月から96.3月までの累計

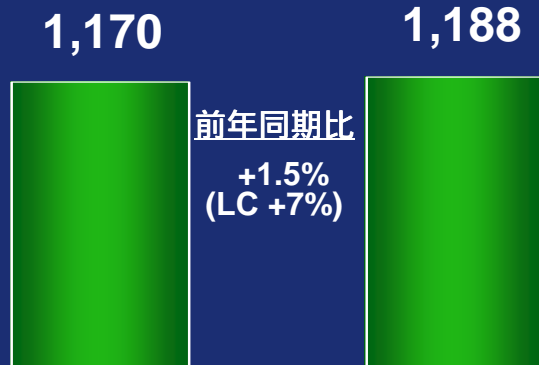
PlayStation ソフト生産出荷本数推移 & 計画



FY04.1Q 音楽

(億円)

売上高



- SMEI: Gretchen Wilson、Prince、Anastacia等の貢献により現地通貨ベースで増収
- SMEJ: アーティストのコンサート活動に伴う収入などにより増収

営業損失



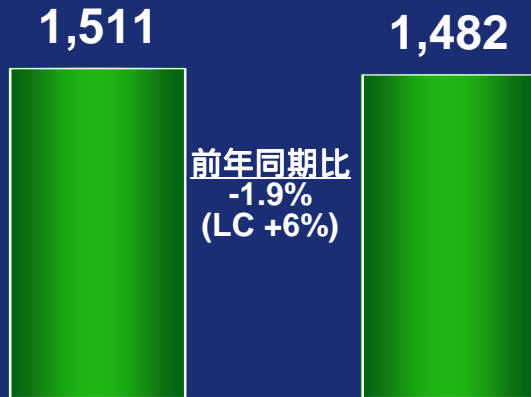
- SMEI: 音楽作品の販売好調に伴う増収や、構造改革の効果により損失が大幅に縮小
- SMEJ: 原価率の改善により利益が大幅に増加

セグメント間取引を含む
LC: 現地通貨試算ベースの伸び率

FY04.1Q 映画

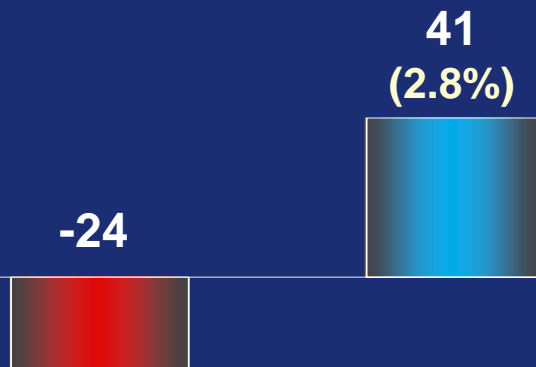
(億円)

売上高



- DVD/VHSソフトの売上好調により現地通貨ベースで増収
- 主な劇場公開作品：
スパイダーマン2 (6/30全米公開)、
Hellboy、13 Going on 30

営業利益(損失)



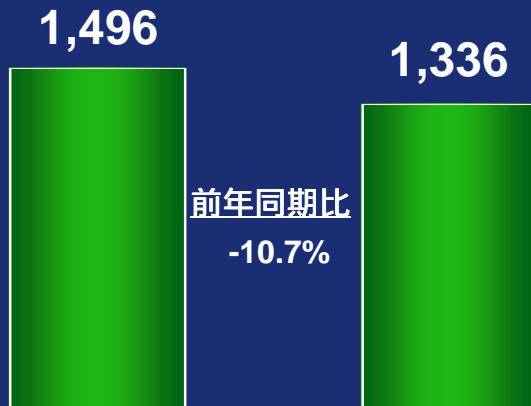
- DVD/VHSソフト、劇場公開作品の業績好調、広告宣伝費の減少により損益改善

FY03.1Q

FY04.1Q

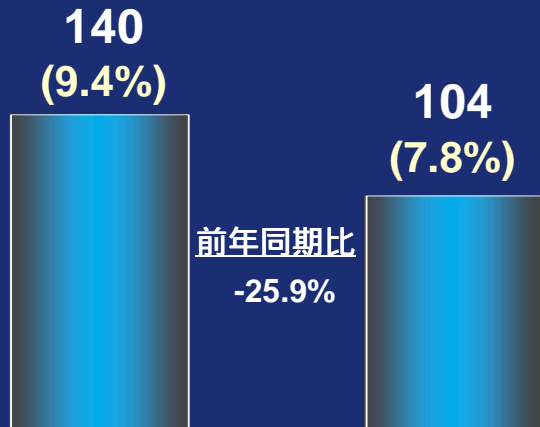
セグメント間取引を含む
LC:現地通貨試算ベースの伸び率
営業利益下の(%)は営業利益率

金融ビジネス収入



- 主に、ソニー生命における収益計上方法の変更および特別勘定の評価益の減少により減収
- 収益計上方法の変更の影響を除けば収入はほぼ前年同期並み

営業利益



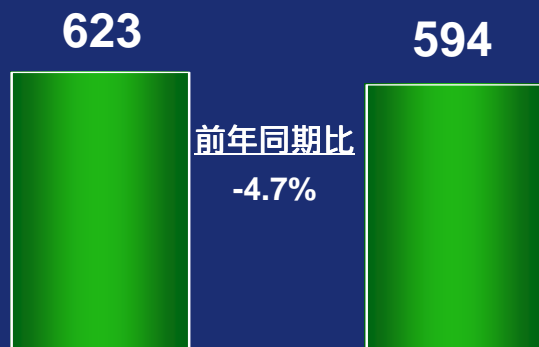
- 主に、ソニー生命において支払保険金・給付金の増加や、新会計基準を適用したことなどにより減益

FY03.1Q

FY04.1Q

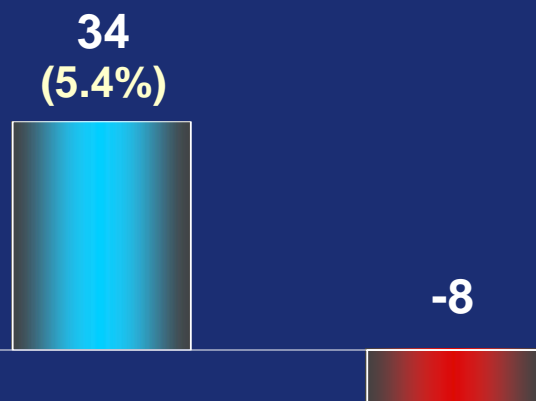
セグメント間取引を含む
営業利益下の(%)は営業利益率

売上高



- 主に日本の広告代理店子会社におけるセグメント間取引の売上減少により減収

営業利益(損失)



- 前年同期は、ソニーカードの一部の顧客口座に関わる権利の譲渡にともなう一時的な収益77億円を計上

FY03.1Q

FY04.1Q

セグメント間取引を含む
営業利益下の(%)は営業利益率

ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ



Sony Ericsson

	2004年 4-6月期	前年同期比
売上高 (百万ユーロ)	1,504	+34 %
税引前利益	113	+215 百万ユーロ
当期純利益	89	+177 百万ユーロ
販売台数 (万台)	1,040	+55 %
ソニー持分への影響額 (億円)*	58	+116 億円

* ソニー・エリクソンは持分法適用会社であり、同社の当期純利益の50% (持分割合相当分) が、ソニーの連結当期純利益に計上されています。

FY04 業績見通し

2004年7月28日現在	FY03	FY04	(億円) 前年度比
売上高	74,964	75,500	+1%
営業利益	989	1,600	+62%
税引前利益	1,441	1,600	+11%
当期純利益	885	1,000	+13%
構造改革費用	1,681	1,300	-23%
設備投資額	3,783	4,100	+8%
うち、半導体向け	1,750	1,900	+9%
減価償却費*	3,663	3,700	+1%
うち、有形固定資産分	2,869	2,900	+1%
研究開発費	5,145	5,500	+7%

*減価償却費は、無形固定資産と繰延保険契約費の償却費を含む

為替レート

FY03実績レート

FY04.2Q以降の前提レート

1ドル

112 円

105 円前後

1ユーロ

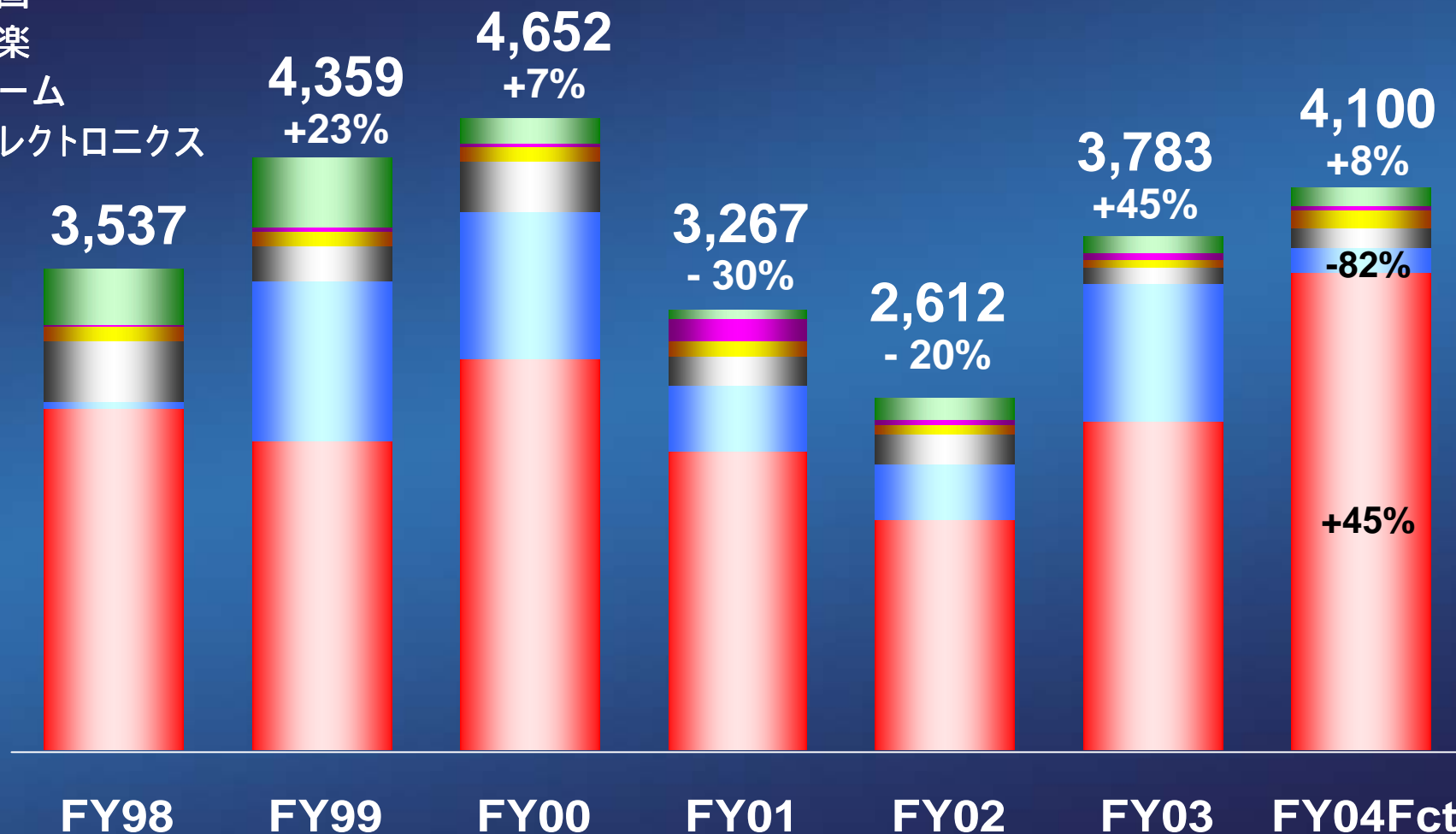
131 円

125 円前後

FY04 設備投資額見通し

(億円)

- その他
- 金融
- 映画
- 音楽
- ゲーム
- エレクトロニクス

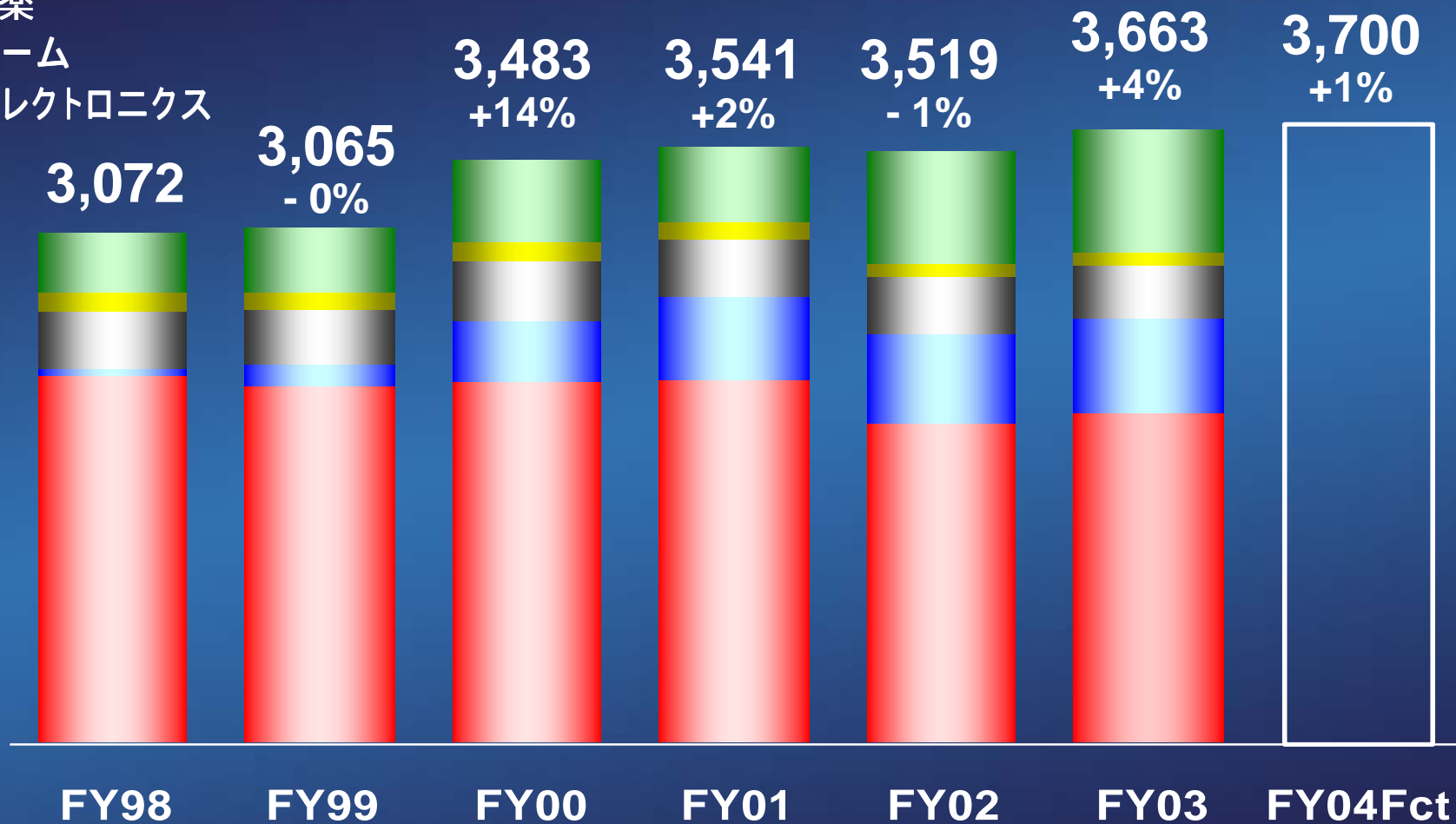


%は全て前年度比伸び率

FY04 減価償却費見通し

(億円)

- その他
- 映画
- 音楽
- ゲーム
- エレクトロニクス



無形固定資産と繰延保険契約費の償却費を含む
%は全て前年度比伸び率

2004年度 第1四半期決算補足資料

1. ソニー販売/出荷台数

(万台)

	FY00	FY01	FY02	FY03	FY04 FCT	
					4月時点	今回
ビデオカメラ	550	540	575	660	700	700
デジタルスチルカメラ	260	340	560	1,000	1,500	1,500
DVDビデオプレーヤー	400	500	700	850	930	930
DVDレコーダー	-	-	2	65	200	200
LCD+PDPテレビ	-	-	-	64	100	100
カラーテレビ	1,130	1,000	1,000	940	940	940
VAIO	250	350	310	320	370	370
デスクトップ	80	140	120	130	130	130
ノートブック	170	210	190	190	240	240
海外	110	180	180	210	250	250
国内	140	170	130	110	120	120

2. 為替レート推移

(円)

	FY03					FY04				
	Q1	Q2	Q3	Q4	FY	Q1	Q2	Q3	Q4	FY
米ドル										
市場平均レート	117	117	108	106	112	109				
加重平均レート*	117	117	108	106	112	108				
予約レート	118	117	113	107	114	108				
ユーロ										
市場平均レート	133	131	128	133	131	131				
加重平均レート*	133	130	127	133	131	131				
予約レート	131	133	131	129	131	132				

*各月のネット輸出金額により加重平均したもの

3. 主要連結財務指標

	FY99	FY00	FY01	FY02	FY03
売上高成長率(%)	-1.7	9.4	3.6	-1.4	0.3
営業利益成長率(%)	-34.0	1.0	-40.3	37.7	-46.7
営業利益率(%)	3.3	3.1	1.8	2.5	1.3
純利益率(%)	1.8	0.2	0.2	1.5	1.2
ROA(%)	1.9	0.2	0.2	1.4	1.0
ROE(%)	6.1	0.7	0.7	5.0	3.8
基本的EPS(円)	144.6	18.3	16.7	125.7	96.0
希薄化後EPS(円)	131.7	19.3	16.7	118.2	90.9
PER(倍、基本的)	100.3	485.5	400.7	33.4	45.4
PER(倍、希薄化後)	110.1	461.6	401.9	35.5	48.0
PBR(倍)	6.0	3.5	2.6	1.7	1.7
EBITDA(億円)*	6,128	6,572	4,833	6,269	5,382
フリー・キャッシュ・フロー(金融除く、億円)*	---	-2,644	671	3,582	486
株価(年度末、円)	14,500	8,900	6,700	4,200	4,360

*営業利益 + 支払利息 + 減価償却費

**営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー